

「まかせると」と「目標」

神石小学校長 田丸 栄

今年の4月・5月は少し肌寒い日が多いようで、例年草刈りに追われる季節のはずなのに、今年度は、そのペースも少しゆるくなのかなと思っています。さて、暦の上では夏が来ました。子供たちは18日(日)の運動会に向けて練習も最終段階を迎えているところです。「一生懸命は美しい」という言葉がありますが、まさに、子供たちが練習から見せる「一生懸命」には、毎日感動しています。しかし、天気予報では、今週末から来週初めにかけて、ずっと傘マークがついており、運動会をどうするかと思索しているところです。

話は変わりますが、今、学校やいろいろな職場で「心理的安全性」ということを大事にしていくことが求められています。「心理的安全性」とは、ある程度の許容された世界(許される・任せてもらえる世界)で、課題解決に向かって、どのようになりたいかという自分の考えを自由に出し合い、議論できる、実行(言動)ができるような世界のことです。このような「心理的安全性」が高い人間関係ができていると、集団としても個人としても成長できるということです。目標が高くても、この心理的安全性が担保されていないと、人は「きつい」と感じてしまいます。また、心理的安全性が高くても、目標が低いと、「ぬるい」集団、「あまい」個人が出来上がってしまいます。「目標」を高くもちつつも、「心理的安全性」も確保する、「任せる」というのは「任せる」ことで、集団も個人もよい成長をしていきます。

話を運動会に戻します。運動会では、個人でも集団でも、決まった動きをすることもあれば、自分で考えて動くことを任せられる時もあります。「目標」は高くもちつつも、子供たちが考えて動く場もつくり、「やってよかった」「楽しかった」と思えるような運動会にしていきたいと思います。そのためにも、運動会当日は、保護者・地域の方のご支援が何よりの力となります。何卒、ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

